

気候変動に対応した茶園管理システムにより宇治茶の安定生産を実現

府内の茶産地の気象条件を細かく予想し、茶園ごとに、重要な管理作業の適期を提案する「茶生育等予測マッピングシステム」の適用範囲を府内全域に拡大するとともに、生産者からニーズの高い害虫防除適期を予測する機能を追加しました。

背景	- 近年の気候変動により、重要な茶園管理作業を最適なタイミングで行うことが難しくなっており、収穫の遅れや病虫害、霜害などの発生リスクが高まっている。 国、企業と連携して、茶園ごとの気象条件を予測し、防霜や摘採適期を提案する「茶生育等予測マッピングシステム」を開発した（R2～3 農水省「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」）
課題	予測システムの府内茶産地全体への展開と、重要害虫への対応について現場から要望。

開発した予測システム(R2)

気象予報
データ

解析

茶園ごとの
気温データ

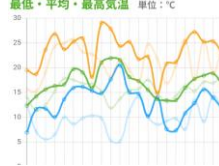
作業適期の提案

適期作業を
実現



50mメッシュ気候データ
解析モデル

農研機構と共同開発し、
特許登録

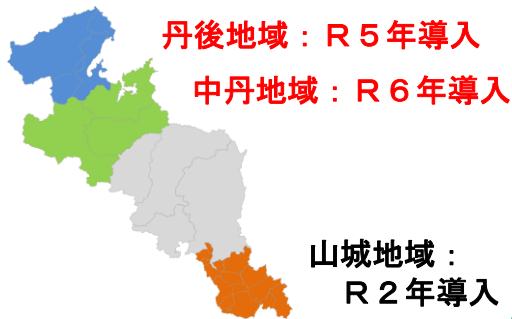


茶生育等予測
マッピングシステム

ICT企業と共同開発



対象地域の拡大(R5～6)



重要害虫の防除適期機能を追加(R6)

- ①降霜予測
- ②摘採適期予測
- ③クワシロカイガラムシ^{*1}
防除適期予測【追加】

^{*1}:クワシロカイガラムシ
茶の重要害虫で、枝や幹に寄生して吸汁加害し、ひどい場合は樹体を枯死させる。

今年は害虫の
発生が早い！

アラート
メール



防霜、摘採、病虫害防除の適期作業により、収量・品質が向上し、農家経営が安定化

研究成果

- 「茶生育等予測マッピングシステム」の適用範囲を府内の茶産地全域に拡大するとともに、クワシロカイガラムシ防除の適期予測機能を追加しました。
- 本システムの導入により、気候変動に対応した霜害の回避、摘採や防除の適期作業が可能となり、府内生産者による高品質な茶生産が可能となり、農家の経営安定に寄与します。

今後の展開

- 生産団体発行の情報誌や報告会を通じて利用者の拡大を図り、府内生産者への普及を図ります。
- 茶に加えて、水稻、エダマメ、果樹など府内特産物の生育予測モデル等の構築を目指します。